

静岡DWA T支部活動検討会 意見交換「平時の取り組みについて」 東部支部の記録

○富士

- ・富士の防災イベント「ふじBousai2021」(11月?)へブースを出展する
- ・施設間交流の促進

○熱海伊東

- ・検討会に参加した施設を中心に交流を図りつつ、他施設への啓発を行い仲間を増やす

○駿東田方&賀茂

- ・東部支部の細分化
- ・チャットワークの活用等、連絡の取りやすい体制づくり
- ・施設同士のつながりづくり
- ・ZOOM等活用し、月1での定例会議
→現場に即した参加しやすい開催時間を要検討
- ・避難所や福祉避難所に派遣されると直接処遇の人手としてカウントされてしまうのではないかと。DWA Tの活動を正しく理解してもらう。
- ・発災直後の派遣調整等、情報伝達の訓練
- ・地域防災計画への参画
- ・地域の民生委員との情報共有
- ・登録員が事業種別・職種の専門性を活かして講師となる、学び合いの場
- ・所属法人、事業所内での理解促進
- ・連絡手段の整備
- ・DWA T派遣やその他被災地支援の経験者が講師となる勉強会

<アンケートより>

- ・定期的な顔合わせのできる研修や会議ができればと思います。
- ・施設間で交流をもてたらありがたいです。
- ・実際に現地に行ったとき「平時に知り得て良かった!」と思えることに、関係性を深めながら取り組んでいきたい。
- ・実際どのような活動をしているかを、訓練などを通じて啓発していきたい。
- ・保育、障がい、高齢それぞれの登録員が多職種の登録員に専門職として対人支援で気をつけているところなどを共有する登録員が講師となる研修。
(実際現地で活動する時にそれぞれ専門職の考えを理解するため)
- ・基礎研修(例:福祉避難所とは?広域避難所、一時避難所、一次避難所の違いとは?
行政の役割とは?災害時要支援者リストとは?)
(実際に現地で基礎を理解していれば現地の住民の後方支援に役立てるのではないかと。)
- ・オリジナルチラシの発行 ※支部広報委員の設置
- ・行政や福祉団体、学校に対してアクションをしていくためのツール
- ・会長を補佐する役員のしくみ(会長と研修担当役員、広報役員、会計役員など)

- 同地域の同業種ではなかなか聞きにくいことも、異業態の方だと聞きやすかったりするので、もう少し小さい地域や地域を越えた同業種などで、密に連絡が取れたりするといいなと思います。実際の現場に出る時も、顔見知りがいるかいないかで、気持ちも違うと思うので。
- 自治会や地域の民生委員とのかかわり方などどのように取り組んでいるのかななどを研修で学びたい。
- 福祉避難所の設営などのロールプレイを行いたい。
- 実際に DWAT で派遣され活動した小山町社会福祉協議会の江藤さんから具体的な体験談を聴いてみたいと思いました。
- 正直言いますと、福祉業界は慢性的な人材不足で毎日汲々と取り組んでおり、災害対策や災害支援に興味ややる気があっても、そちらに注力することが難しいです。事業所の管理者であっても、忙しい現場から離れ研修や災害派遣に出向いたりという事に、一般職員からの理解を得られ難い状況です。